

東日本大震災 きょう1年



家の土台だけが残る仙台市若林区荒浜地区。奥は市南部の街明かり＝10日午後6時14分、15秒間露光、矢木隆晴撮影

死者
1万5854人

行方不明者
3155人

避難者
34万3935人

死者・行方不明者数は2012年3月10日、避難者数は2月23日現在

家族離ればなれ 3割 仕事失ったまま 4割

東日本大震災は11日で発生から1年になる。死者・行方不明者は1万9千人に上り、仮設住宅などで避難生活を強いられる人も34万人を超えている。東京電力福島第一原発事故があった福島県では、県外に避難した6万3千人が、見えない帰郷の日を今も待ち続ける。一方、奪われた命を悼みながら、もとの暮らしを少しでも取り戻すための「復興」の手立てはどこまで進んだか。被災地では、雑音に希望を抱きながらも、進まぬがれき処理や除染、雇用対策などに不安や不満の声がある。震災後2年目に向けての課題はまだ多い。

いま伝えたい
千人の声

アンケート
(28・29・30面)

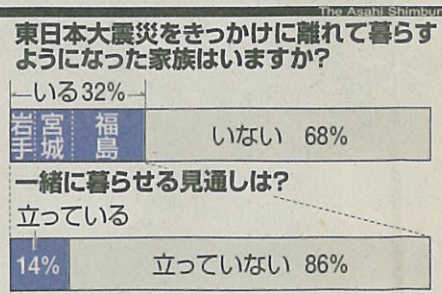
朝日新聞は1月下旬～3月上旬、「いま伝えたい千人の声」で取材した被災者やその保護者のうち、岩手、宮城、福島の仮設住宅とアパートなどの「みなし仮設」で暮らす計1033人に面接調査した。離れて暮らすようになった家族が「いる」と答えた人は32%。このうち、再び一緒に暮らす見通しが「立っている」と答えた人は14%。一方で「立っていない」と答えた人は86%。

中間貯蔵施設 3町に

環境相提案 双葉・大熊・楢葉

細野豪志環境相は10日、福島県郡山市で開かれた同県双葉郡の8町村との意見交換会で、除染で出る汚染土などを保管する中間貯蔵施設を双葉、大熊、楢葉の3町に設置することを提案した。予定地は国が買い上げる方針で、受け入れ自治体には財政支援を

36面||3町長は判断保留環境省によると、施設の候補地は東京電力福島第一原発の北側(双葉町)と南側(大熊町)、第二原発の南側(楢葉町)になる。貯蔵施設を複数にするのは、



最大5平方メートルもの広い敷地を1カ所確保することが難しいという、汚染土を効率的に搬入する道路のアクセスも勘案した。政権は6月末までに構想を固め、地元との調整を経て来年3月末までに正式に決める。平野達男復興相は

2012年(平成24年)
3月11日
日曜日



天気 6 9 12 15 18 21(時)

青森	☁	☁	☁	☁	☁	☁	80	-3
盛岡	☁	☁	☁	☁	☁	☁	90	-2
秋田	☁	☁	☁	☁	☁	☁	90	-4
山形	☁	☁	☁	☁	☁	☁	100	0
仙台	☁	☁	☁	☁	☁	☁	100	3
福島	☁	☁	☁	☁	☁	☁	80	-1
新潟	☁	☁	☁	☁	☁	☁	80	-4
長野	☁	☁	☁	☁	☁	☁	90	-1
東京	☁	☁	☁	☁	☁	☁	60	-7

朝日新聞東京本社 本日の編集長＝梅田正行
〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com

腸に 整腸(便通を整える)、軟便、便秘、腹部膨満感に

新ビオフェルミンS錠

製造販売元: ビオフェルミン製薬 販売元: タケダ 指定医薬部外品

社説 11面
■社説 震災1年 福島のつながり戻す方策を

東日本大震災 1年
韓国大統領が日本にメッセージ

韓国の李明博大統領が日本国民に向けたメッセージを寄せた。被災地を訪れたときの思いをつづり、苦難を乗り越え、飛躍できるようにと声援を送っている。 11面

気仙沼の魚市場、やっとスタート地点 2面
警戒区域、住民の帰還を目指して 3面

津波に壊された旧校舎で卒業式 37面
8ページ別刷り特集をお届けします

被災3県の被害状況(2月末現在)、津波の脅威、福島第一原発のいま、激変した地震列島。写真とグラフィックを豊富に使った8ページの別刷り特集を、朝刊とともにお届けします。見開き面は、抜き取ってお読みください。

「引き受け困難」「拙速」

中間貯蔵施設候補地の町長

除染で出る汚染土壌などを保管する中間貯蔵施設の候補の町名が10日、初めて政権側から地元に表示された。設置を要請された福島県双葉、大熊、楢葉3町の町長は判断を保留したものの、当惑を隠せなかった。

「引き受けなければならぬ責任の存在を示していただきたい」。双葉地方町村会長の井戸川克隆・双葉町長は意見交換会の後、報道陣に語った。政権の対応を批判し、2週間前に8町村と政権との協議を中止させた井戸川町長。この日も「引き受けは困難」との考えを示した。

双葉町とともに、東京電力福島第一原発が立地する大熊町。渡辺利綱町長は中間貯蔵施設の必要性は認めたいが、名指しには「拙速で不愉快だ」と三反発した。「(原発事故の)いろいろな

なマイナスイメージを拭拭する提案がなされて、それなら検討しましょうというのが順序だ」。負担ばかりを押しつけるかのような政権の提案を批判した。

一方、かねて「中間施設は複数の場所に必要だ」と主張してきた楢葉町の草野孝町長は冷静に受け止めた。「国の方針に従って、我々も協力せざるを得ないんじゃないかと思う」

福島第二原発が立地する富岡町には、中間貯蔵施設とは別に、災害が起きた際の焼却灰などを捨てる管理型処分場の設置が提案された。遠藤勝也町長は「想定していなかった。(受け入れる

震災1年に思う

■岩手

釜石市の三塚浩之さん(49) 走り回った1年。魚仲買の店や自宅が被災した。身内は無事だったから、どうやって食べていくかだった。顔を上げ、一歩踏み出すきっかけを作りたい。

■宮城

気仙沼市の桑原吉成さん(34) 一生分のいろいろな経験すべてを体験してしまったような1年だった。現実を受け止めきれない葛藤は今もある。むしろ一

も頑張って復興に向かいたい。宮古市の小向アサ子さん(64) 家が流され、仮設で暮らす1年だった。いつになったら落ち着いて住めるのか。

■福島

いわき市の佐々木ユキ子さん(70) 家も家族も無事だったから、寂しさを誰かに打ち明けることはできない。ひっそり暮らすと思う1年だった。

■福島

南相馬市の高野徳明さん(51) 原発事故で1カ月半ほど新潟県に避難した。会社は警戒区域の中にあり、仕事ができない。同僚はバラバラ、仕事を辞めた仲間もいる。踏んだり蹴ったりの1年だった。

■福島

楢葉町の和木文子さん(71) もう1年、まだ1年。何が何だか分からないままの1年だった。去年の3月11日以前の穏やかな楢葉で暮らしたい。

■福島

岩手県釜石市のJR釜石駅前では、夕方からの催しで、うちわ1万枚を売って建立した復興の鐘を打ち、追悼の歌や詩の朗読があった。鐘を作った有志の一人、会社員の岩間妙子さん(33)は「めまぐるしい1年。あつという間に時間が過ぎた」と振り返る。



「希望の灯」を点灯する子どもたち。10日、福島県南相馬市、関田航撮影

台湾からの支援者(左)とともに黄色いハンカチを結びつける住民ら。10日午後1時58分、仙台市若林区、矢木隆晴撮影



あすへ希望捨てない

宮城・閉上

宮城県名取市の会社員、櫻井謙二さん(37)は、市立閉上中学校の卒業式に出席した。この春、卒業するはずだった長女綾香さん(14)の代わりに、卒業証書を受け取った。

あの日、妻(36)と綾香さん、次女(10)、義母の4人は車で逃げる途中、津波に巻き込まれた。「早く家族のもとに行きたい、という気持ちだけで過ごしてきた」。櫻井さんはこの1年をそう振り返る。

招かれた卒業式への参加も悩み続け、当日朝になって出席を決めた。保護者席の最後列で、綾香さんがいない現実が胸に迫った。スーツの右ポケットに手を入れ、綾香さんが制服に付けていた名札に触れた。

「綾香と一緒に卒業証書を受け取れた」。式の後、大事そうに遺影と証書を抱きかかえた。

11日は、犠牲になった生徒の遺族らと閉上中の正門近くに慰霊碑を建てる。

仙台・荒浜

「津波で古里の歴史を終わらせたくなかった」。仙台市

地元説得材料も

細野環境相は10日、中間貯蔵施設を分散させる理由を「それぞれの地域にある程度負担していただく方が受け入れていただきやすい」と記者団に語った。

環境省によると、除染で出る汚染土は最大で東京ドーム23杯分(2800万立方メートル)。これだけ大量の汚染土をひとまとめに保管すれば、河川の流れを変える必要もあり、断念した。

また、首長たちは「汚染土を30年以内に県外に搬出する」という政権の方針を法律に明記するよう求めた。平野達男復興相は「法制化はやりませう」と答えたが、細野氏は「しかるべき時期に判断したい」と、政権の足並みもそろっていない。

岩手・釜石

震災では、小学校から一緒だった2人の友だちと合唱部の先輩を失った。「3人のことを思いながら、ろそくを持ちました」

同市の高校1年、皆川侑司さん(16)も点火役をした。市内の私立高校で学ぶはずだったが休校に。隣の県立高に転校した。「転校先で先生や友だちに恵まれた1年でもあった」

岩手県釜石市のJR釜石駅前では、夕方からの催しで、うちわ1万枚を売って建立した復興の鐘を打ち、追悼の歌や詩の朗読があった。鐘を作った有志の一人、会社員の岩間妙子さん(33)は「めまぐるしい1年。あつという間に時間が過ぎた」と振り返る。鐘作りや地元の復興計画に携わり、全国の人たちと関わったことが力になったという。「家を無くし、祖父母を亡くし、ゆっくり考える時間もなかった。これから、どこに向かうのかは分からない。でも、明日があると思うからやっていた。明日は、今日と同じように日が昇るから」